

# 防災意識を高めましょう

## ●家族で防災に取り組もう！

### 家族防災会議のすすめ

いざというときの家族の行動、避難所や避難方法、連絡方法などを日ごろから家族でよく話し合っておきましょう。

また、災害による被害を少なくするために、あらかじめ家庭内の役割を分担しておきましょう。



### 非常持ち出し品の準備

災害時は、水道施設などが使用できなくなったり、道路の損壊などにより救援活動がすぐにできない可能性もあります。

災害発生後の数日間は自足できるよう準備をしておき、非常持ち出し品は、避難時にすぐ取り出せる場所に保管しておきましょう。



## ●地域ぐるみで防災に取り組もう！

大災害が発生したとき、交通網の寸断、多発する火災などにより、消防や警察などの公共機関が十分に対応できない可能性があります。「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで積極的に自主防災組織に参加し、災害に強いまちをつくりましょう。

また、高齢者や子ども、障害者、傷病者、外国人などの災害時に手助けが必要な人（災害時要援護者）を地震や火災から守るために、地域で協力しあいながら支援していきましょう。

### 災害時要援護者への協力方法

#### 高齢者・病人・乳幼児など

複数の人で対応し、急を要するときは、ひもなどを使って背負い、安全な場所へ避難させてください。

また、乳幼児は手をつなぐなど、しっかり保護しましょう。



#### 肢体の不自由な人

車椅子を使用する場合は、階段では、必ず3人で協力し、上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きにして、身の安全と恐怖感を与えないように配慮してください。



#### 目の不自由な人

「手伝いましょうか」など、まず声をかけてください。

誘導するときは、杖を持っていないほうの腕のひじあたりを軽く触れるか、腕を貸して半歩前くらいを歩いてください。



#### 耳の不自由な人

話をするときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしてください。

口頭で分からないようであれば、紙とペンなどを使って筆談してください。

